当院におけるトリソミー8単独症例の特徴について

○岸森　千幸,福塚　勝弘,奥村　敦子(天理よろづ相談所医学研究所),前川　芳明
松尾　収二(天理よろづ相談所病院)

トリソミー8は，一般に疾患特異性は低いが，造血器腫瘍に広く見られる染色体異常である．今回，トリソミー8単独が異常のみられた症例についての特徴を調べた．

【対象および方法】

対象は，当院において1990年6月～2004年4月の間にトリソミー8単独の異常がみられた21症例（以下+8単独症例）であった．対照として+8と他の異常を同時に認めた65症例（+8複雑症例）を用いた．以上の症例についてカルテ検索を行い，診断，寛解の有無・期間，生存期間を調べた．

【結果および考察】

疾患の内訳をみると，+8単独症例は，MDS/AML5例，MDS4例，de novo AML4例，再生不良性貧血3例，CMMoL2例，Hypoplastic leukemia2例，骨髄増殖性疾患1例であった．これに対し，+8複雑症例は，上記の疾患以外にALL4例，ATL2例，悪性リンパ腫16例，多発性骨髄腫1例等のリンパ系の疾患も含まれていた．

MDS，リンパ系疾患以外の細胞の異型性をみると，再生不良性貧血は，+8単独症例3例中2例に巨赤芽球様変化が見られ，+8複雑症例2例は異型性がみられなかった．de novo AMLは，+8単独症例4例中1例に好中性顆粒出現不良が見られたのみであったが，+8複雑症例では11例中4例に3系統いずれかの異型性を認めた．

寛解についてみると，+8単独例の白血病11例中寛解になったのは3例（27%）で，期間も2～4ヶ月と短かった．+8複雑症例の白血病17例中寛解になったのは9例（53%）で期間も平均1年7ヶ月であった．すなわち+8単独例は寛解導入が困難で期間も短い傾向が見られた．また，白血病，MDS例における生存期間をみると，+8単独例は1年1ヶ月，+8複雑症例は2年1ヶ月であり，生存期間も+8単独例の方が短い傾向があった．以上のことから+8単独の染色体異常は予後不良因子になる可能性があると考えられた．

【まとめ】

当院における+8単独症例は，骨髄系造血器腫瘍でみられ，リンパ系造血器腫瘍にはみられなかった．また，それらは寛解導入率が低く，生存期間も短い傾向があった．

連絡先　0743-63-5611(8921)